

令和5年3月30日

【富山県美術館】「富山新聞創刊 100 年記念 「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容—瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄」展 開催および一般前売券販売のお知らせ

富山県美術館では、2023 年 6 月 3 日（土曜日）～ 7 月 17 日（月曜日・祝日）の間、「富山新聞創刊 100 年記念「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容—瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄」展を開催します。一般前売券は 4 月 3 日（月曜日）から販売します。



本展は、1930 年代の「前衛写真」から 80 年代まで、富山県出身の詩人・美術評論家の瀧口修造(1903-79)の思想を受け脈々と引き継がれた前衛写真の精神とその魅力を、4 人の作品や資料を中心にウジェーヌ・アジェ、マン・レイなど関連作家の作品を加えて紹介いたします。

日本の写真史における前衛写真は、シュルレアリスムと抽象主義の影響を受け、1930 年代に台頭してきました。瀧口は、その推進に大きく寄与しましたが、写真の記録性を重視し、故意に実在を破壊、加工する技巧的表現に偏重しつつあった傾向に対して早くから警鐘を鳴らし、ストレート・フォトでもシュルレアリスム的な表現が可能であると主張しました。瀧口とともに 1938 年に「前衛写真協会」を立ち上げた阿部展也(のぶや)(1913-71)は瀧口に共鳴し、ともに『フォトタイムス』誌などに作品や評論を発表し、精力的な活動を展開しました。

その頃中学生だった大辻清司(1923-2001)は、瀧口や阿部に多大な影響を受けて写真家を志します。そして、50 年代から造型的な写真を発表しますが、やがてオートマティスムの手法を採用したスナップショット的な「なんでもない写真」へと変化を遂げていきました。その大辻に見出され、写真の才能を見事に開花させたのが、牛腸(ごちょう)茂雄(1946-83)です。牛腸は日常における「自己と他者」をみつめ、技巧に凝らず誇張なしに撮影した「コンポラ写真」の代表的な 1 人として注目されました。

本展は、1930 年代の「前衛写真」から 80 年代まで、瀧口の思想を受け脈々と引き継がれた前衛写真の精神とその魅力を、4 人の作品や資料を中心にウジェーヌ・アジェ、マン・レイなど関連作家の作品を加えて紹介いたします。

※大辻清司の「辻」は二点しんによる

開催概要

展覧会名

富山新聞創刊 100 年記念「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容―瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄

会期

2023 年 6 月 3 日（土曜日）～ 7 月 17 日（月曜日・祝日）

前期：6 月 3 日（土曜日）～6 月 27 日（火曜日）／ 後期：6 月 29 日（木曜日）～7 月 17 日（月曜日・祝日）

※前後期で展示替えがあります。

開館時間

9 時 30 分～18 時 00 分（入館は 17 時 30 分まで）

休館日

毎週水曜日

会場

富山県美術館 2 階 展示室 2、3、4

主催

富山県美術館、富山新聞社、北國新聞社、チューリップテレビ

特別協力

武蔵野美術大学 美術館・図書館

企画協力

株式会社アートインプレッション

協賛

塩谷建設、トヨタモビリティ富山（五十音順）

観覧料

前売り一般：700 円 一般：900（700）円、大学生：450（350）円、高校生以下無料

（ ）内は 20 名以上の団体料金

一般前売券の販売は、6 月 2 日（金曜日）まで

【前売券販売所】

富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビ(4月3日から)
e-tix (準備中)

見どころ・出品作品紹介

これまでなかなかまとまって紹介されることのなかった「前衛写真」の作品や資料をご堪能いただくとともに、瀧口修造、阿部展也、大辻清司、牛腸茂雄の4人により「前衛写真」から「なんでもない写真」へと継承された「前衛」精神の流れをご覧ください。

<出品作品紹介>



『フォトタイムス』15巻5号表紙 写真：阿部展也 1938年 新潟市美術館蔵

一見、造られたのか拾ってきたのか、意図も用途もわからない不思議な物。こうした「オブジェ」の精神を表現するのに写真が最適であるとした瀧口修造の主張を、阿部は強烈なインパクトの写真で見事に表現しています。



大辻清司(鈴木秀ヲプリント)《書斎の瀧口修造夫妻》1975年(2003年プリント) 当館蔵

モノに囲まれた深夜の書斎で、カメラを向いた瀧口夫妻の表情を捉えています。私淑する瀧口の実験精神を受け継ぎ写真表現を追究する大辻が、1975年に発表した「大辻清司実験室」のために撮った1枚であるとともに、私的な交友録・記念写真でもあります。



牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》1977年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵（前期のみ展示）

こわばった顔をした双子の姉妹。写真の側から見つめられているような、不思議な感覚に魂が揺さぶられます。カメラの向こうの牛腸と2人の感情の交叉を想像すると、「自己と他者」というテーマが強烈に迫ってきます。何気ない日常を、誇張や強調をせずありのままの姿で撮る「コンポラ写真」の代表的存在の1人とされる牛腸の代表作の1点です。

展覧会チラシ（PDF：8,704KB）（別ウィンドウで開きます）

会期中のイベントについて

詳細は、当館ホームページ等でお知らせします。

【映画上映会「SELF AND OTHERS」】

6月10日（土曜日）（予定）

【講演会】

写真評論家の大日方欣一氏を迎え、講演会を予定しています。

7月1日（土曜日）14時00分～（予定）

【ギャラリートーク】

6月3日、6月17日、7月15日（予定）

お客様へのお願い

ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

土日祝の混雑時には、入場制限を行う場合がございます。

ご取材・掲載用写真について

広報用画像および取材申請については、下記申込書にご記入の上、ご送付をお願いいたします。

広報用画像提供・取材申請書（PDF：1,139KB）（別ウィンドウで開きます）

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US



富山新聞創刊 100 年記念

「前衛」写真の精神： なんでもないものの変容

瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄

2023年 6/3(土) ~ 7/17(月) 祝

The Spirit of
Avant-Garde
Photography:
Transforming "Nothing Much"
-TAKIGUCHI Shuzo,
ABE Nobuya,
OTSUJI Kiyoji,
GOCHO Shigeo



牛腸茂雄 (SELF AND OTHERS) 1977年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵 前期のみ展示

前期：6月27日(火)まで 後期：6月29日(木)から 前期・後期で展示替えがあります。9:30～18:00(入館は17:30まで) 休館日=毎週水曜日

〔主催〕富山県美術館、富山新聞社、北國新聞社、チューリップテレビ 〔特別協力〕武蔵野美術大学 美術館・図書館 〔企画協力〕株式会社アートインプレッション 〔協賛〕塩谷建設、トヨタモビリティ富山(五十音順)

The Spirit of Avant-Garde Photography: Transforming "Nothing Much"—TAKIGUCHI Shuzo, ABE Nobuya, OTSUJI Kiyoji, GOCHO Shigeo

June 3–July 17, 2023 Opening Hours: 9:30 AM–6:00 PM (Last admission is 5:30 PM) Exhibition Closed: Every Wednesday

富山県美術館 〒930-0806 富山市木場町3-20 Tel 076-431-2711 Toyama Prefectural Museum of Art and Design: 3-20 Kiba-machi, Toyama City, Toyama, 930-0806 Tel +81 76 431 2711



富山県美術館
アート＆デザイン

富山新聞創刊100年記念

「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容 —瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄

日本の写真史において前衛写真は、シュルレアリスムと抽象主義の影響を受けて1930年代に台頭しました。1938年には「前衛写真協会」が結成され、その中心人物の瀧口修造は、写真の本質である記録性を重視し、技巧に走りつつあった当時の傾向に警鐘を鳴らし、超現実主義は「日常現実のふかい襷のかげに秘んでいる美を見出すこと」であると主張しました。一緒に協会を立ち上げた阿部展也は、瀧口に共鳴し、オブジェや風景の写真を発表しました。2人の影響を強く受けた大辻清司は、「なんでもない写真」と題したシリーズを手掛けます。大辻の愛弟子の牛腸茂雄は、技巧に凝らず日常を誇張なしに撮影した「コンボラ写真」の代表的な一人として注目されました。本展は、1930年代の前衛写真から1980年代への展開のなかに連続と流れてきた瀧口の思想の様相を、4人の作品や資料を中心に、ウジェーヌ・アジェ、マン・レイなど関連作家の作品を加えて紹介します。

①

瀧口修造《私の心臓は時を刻む》より
1962年 当館蔵

②

雑誌『フォトタイムス』15巻5号表紙
(写真：阿部芳文(展也)撮影)
1938年

③

大辻清司《無言歌》
1956年 千葉市美術館蔵(後期のみ展示)

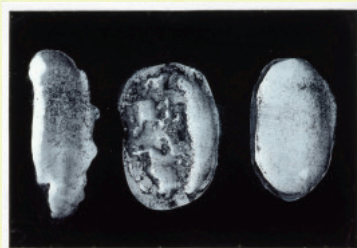
④

大辻清司《瀧口修造夫妻、書斎にて》
1975年(2003年プリント) 当館蔵

⑤

牛腸茂雄《幼年の「時間」1》
1980年頃 新潟市美術館蔵(前期のみ展示)

①



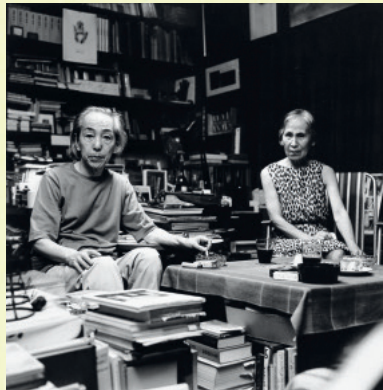
②



③



④



⑤



会 期 2023年6月3日(土)～7月17日(月・祝)
前期:6月27日(火)まで、後期:6月29日(木)から
※ 前期・後期で展示替えがあります。
※ 都合により出品作品、出品期間が変更になる場合があります。

開館時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)

休 館 日 毎週水曜日

会 場 富山県美術館 展示室2、3、4

観覧料 Fee for special exhibition

一般 Adults	¥ 900(700)
大学生 College students	¥ 450(350)
高校生以下 High school students or younger	無料 Free
一般前売り Advance tickets	¥ 700

※ ()内は20名以上の団体料金 ()=Fee for group tickets
※ 企画展入場当日に限りコレクション展もご覧いただけます。
※ 各種手帳をお持ちの障がい者の方および付添者1名の観覧は無料
※ 学校観覧、社会教育活動としての児童・生徒の引率者は無料
※ 「リピーター割」、「クマ割」などの各種割引、オンラインチケット販売を実施中。詳細については、ホームページをご覧ください。



前売り券販売所(2023年6月2日まで販売)
富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビ、e-tix

ご来館されるみなさまへ

- ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。
- 記載内容は都合により変更する場合があります。
当館ホームページ、SNS等をご確認のうえ、ご来館されることをお勧めいたします。

会期中のイベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNSでお知らせします。

次回企画展

「大竹伸朗展」8月5日(土)～9月18日(月・祝)

Access

- 富山駅北口から 徒歩 約15分/タクシー 約3分/バス 1番のりばより乗車「富山県美術館」下車すぐ
 - 富山空港から…タクシー・車 約20分(約9km)
 - 北陸自動車道から…富山I.C.から国道41号経由 約15分
- ※ 美術館の駐車場(8:00～22:30)は限りがあり、土日祝は混雑が予想されます。
お越しの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。
満車の際は、環水公園立体駐車場など周辺駐車場をご利用ください。

富山県美術館 Toyama Prefectural Museum of Art and Design

〒930-0806 富山市木場町3-20 3-20 Kiba-machi, Toyama City, Toyama, 930-0806, Japan
tel.076-431-2711 fax.076-431-2712 https://tad-toyama.jp/

The Spirit of
Avant-Garde
Photography:
Transforming "Nothing Much"
-TAKUICHI ABE,
ABE Nobuya,
OTSUJI Kiyoh,
GOGHO Shigeo

富山新聞創刊 100 年記念 「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容
—瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄
広報用画像一覧

画像①	画像②	画像③ ※後期のみ展示
		
画像④	画像⑤ ※前期のみ展示	画像⑥ ※前期のみ展示
		
画像⑦		
		

お問い合わせ 富山県美術館 〒930 - 0806 富山県富山市木場町 3 - 20
tel : 076-431-2711 fax : 076-431-2712
メール : abijutsukan@pref.toyama.lg.jp
担当：広報に関して：川浦 展覧会に関して：八木、渡辺

Press Release

令和5年3月30日(木)

富山新聞創刊 100 年記念 「前衛」写真の精神:なんでもないものの変容
—瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄

広報用画像申込書

E-mail: abijutsukan@pref.toyama.lg.jp / FAX 076-431-2712

■別紙記載の注意事項をお読みいただき、以下の必要事項をご記入の上、お送りください。

申込日			
貴媒体名			
(WEB の場合の URL)			
貴社名／部署			
ご担当者氏名		E-mail:	
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL:	FAX:	
掲載／放送予定日	年 月 日	掲載号発売日:	年 月 日
記載企画内容	※なるべく詳細にお知らせください。(企画書など別途添付いただいても構いません) ※ご取材希望の場合はこちらに内容、希望日をお書きください。		

※ご記入いただいた個人情報は、広報用写真貸出しの目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

■掲載ご希望の画像(□にチェックを入れてください)

広報用画像一覧・掲載時のキャプション			
☐	①瀧口修造《私の心臓は時を刻む》より 1962 年 富山県美術館蔵	☐	②雑誌『フォトタイムス』15 巻 5 号表紙(写真:阿部芳文(展也)撮影)1938 年
☐	③大辻清司《無言歌》1956 年 千葉市美術館蔵	☐	④大辻清司《瀧口修造夫妻、書斎にて》1975 年(2003 年プリント) 富山県美術館蔵
☐	⑤牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》1977 年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵	☐	⑥牛腸茂雄《幼年の「時間」1》1980 年頃 新潟市美術館蔵
☐	⑦「前衛」写真の精神:なんでもないものの変容—瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄ポスター		

※その他、美術館外観等の写真が必要な場合は、下記空欄にご記載ください。

お問い合わせ 富山県美術館 〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20
tel: 076-431-2711 fax: 076-431-2712
メール: abijutsukan@pref.toyama.lg.jp
担当: 広報に関して: 川浦 展覧会に関して: 八木、渡辺



富山県美術館 広報用使用画像について

- ◎ 本広報用画像の使用は、出版・放送（番組）・WEB 等、富山県美術館および展覧会の広報を目的とした報道に限らせていただきます。展覧会の広報にあたっては、展覧会名、会期、会場を必ずご掲載ください。
- ◎ 画像は「広報用画像申込書」に掲載または放送内容を具体的に記載の上、ご申請ください。富山県美術館より画像データをお送りいたします。**提供した画像データは、使用後すみやかに破棄してください。**
- ◎ 画像使用の際は、「広報用画像申込書」をご参照の上、所定のキャプションとクレジットを表記してください。
- ◎ **画像はトリミング（切り取り）はせず、全図で使用してください。作品が切れたり、キャプション等の文字や他の画像を重ねてのご使用はできません。**
- ◎ WEB にてご掲載の場合には、コピーガード（※右クリック不可）を施す、画像サイズを落とすなど、2 次使用防止への可能な限りのご対応をお願いします。
- ◎ ロゴマーク・ロゴタイプに他のデザイン要素を重ねたり、横ロゴマーク・ロゴタイプに他のデザイン要素を重ねたり、横切らせたり、余白を削除したりすることはしないでください。
- ◎ 申請をいただいた媒体以外の企画（例：出版物表紙、広告素材使用は不可）での二次使用はできません。**再掲載・再放送などを希望される場合は、別途申請が必要です。**
- ◎ 基本情報と画像使用の確認のため、校正をメールで富山県美術館広報担当までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◎ 掲載および放映いただいた場合、お手数ですが掲載紙・誌、URL、番組収録の DVD、CDなどを富山県美術館へのご提供をお願いいたします。

お問い合わせ 富山県美術館 〒930 - 0806 富山県富山市木場町 3 - 20
tel : 076-431-2711 fax : 076-431-2712
メール : abijutsukan@pref.toyama.lg.jp
担当：広報に関して：川浦 展覧会に関して：八木、渡辺

